

LEDで心地よい生活を。

第16期中間 株主通信

IR REPORT

2008年8月1日～2009年1月31日まで

CONTENTS

トップインタビュー	01
What's CCS	03
特集	05
連結決算の状況	07
財務諸表	08
アンケート結果のご報告	09
会社概要／株式の状況	10

シーシーエス株式会社

証券コード:6669



代表取締役社長 米田 賢治

社 是 お客様に愛と感謝
 企業理念 光を科学し、社会に貢献する
 中長期ビジョン 新たな光産業を創出し、
 光の世界企業を目指す

自然光LEDを用いたビジネス、 そしてバイオ・アグリ分野で新たな事業の柱を

Q1 第16期第2四半期連結累計期間の決算概況を教えてください。

A 主要顧客からの受注低迷が響き、厳しい状況に

当第2四半期連結累計期間は売上高1,984百万円(前年同期比27.1%減)、営業損失172百万円(前年同期は414百万円の黒字)、経常損失141百万円(同401百万円の黒字)、四半期純損失87百万円(同261百万円の黒字)となりました。

世界的な景気後退の影響による企業業績の低迷によって設備投資計画の中止・延期が続き、需要が大幅に減少する厳しい状況が続きました。当社の主力事業であるマシンビジョン照明分野は、主要顧客の電子・半導体業界の低迷に加えて、これまで比較的安定していた自動車関連業界も落ち込みました。海外では特に、世界の工場と言われているアジアが全般的に停滞し、受注は2008年の10月頃から右肩下がりの状況が続いています。一方、新エネルギー関連など非常に元気の良い分野もあります。太陽電池やリチウムイオン電池の検査用途に、当社がライティングソリューションのノウハウを持っているということで、引き合いが入っており、当第2四半期連結累計期間における業績に貢献しました。新エネルギー分野については多くのメーカーが、切磋琢磨して研究開発に取り組んでいますので、引き続き積極的にアプローチしてまいります。

Q2 通期の業績見通しをお聞かせください。

A コストダウンを図る一方、成長に向けた開発投資は積極推進

当第2四半期連結累計期間の状況を踏まえ、通期の業績計画を修正しました。新規連結子会社フェアリーエンジェルの業績を加え、売上高は3,500百万円(前期比37.5%減)、営業損失は800百万円(前期は779百万円の黒字)、経常損失は790百万円(同765百万円の黒字)、当期純損失400百万円(同501百万円の黒字)を見込んでいます。上期の後半(12月、1月)の厳しい状況が下期も続くものと考えており、売上高の減少が避けられない中、原材料・使用部材の共通化、事務の効率化などによるコスト削減に取り組みます。ただし、将来の成長に向けた研究開発投資は弛めずに、積極的に推進する方針です。このような厳しい状況下、当社の課題は経営のスピードアップだと考えています。会社の成長に伴って、様々な仕組みを構築してきましたが、市場や顧客のニーズは、これまでにない速さで変化しています。業務プロセスの再構築や柔軟な組織作りなど一段とスピードを上げていけるよう経営改革を行うつもりです。

なお、期末配当金につきましては、当初1株当たり3,000円と予定しておりましたが、今期の業績見込みおよび内部留保の必要性等を考慮しまして、2,000円とさせていただきます。また10月～1月まで、自社株買いを実施し488

株を取得しました。自社株買いは株主の皆様への利益還元とともに、M&Aなど、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とすることが狙いです。一方で、株式市場の低迷に伴う、当社の株価下落をある程度抑制する効果もあったのではないかと考えています。

Q3 下期はどのような施策を推進するお考えでしょうか。

A 不況の今、コスト低減に寄与するLED光源ボックス「PFBシリーズ」を訴求する絶好のチャンス

マシンビジョン照明分野は、引き続き主力製品であるライン照明とLED光源ボックスの受注拡大を図ります。2008年11月に発売したLED光源ボックス「PFBシリーズ」は、実際にお使いいただき、評価していただくため2008年10月からサンプル出荷を開始しました。景気の低迷が長引けば、製造設備の見直しや、少しでもコストを削減したいというニーズが高まります。LED照明は環境負荷が少なく、長寿命・低消費電力という特徴がありますので、ランプ交換などメンテナンスの手間を省き、ランニングコストを抑えることができます。こうしたLEDの特徴を活かして、製造現場でハロゲン光源を使用しているお客様に対して、LED光源への置き替え提案を積極的に進めています。当社は案件毎にソリューションを組み合わせて照明を提案していますが、同シリーズについては、ハロゲン光源を使っている場所で容易にLED光源への入替えを実施できるものです。お客様に商品の良さを知っていただくため、私が、陣頭指揮をとって拡販を推進してまいります。

A 自然光LED搭載商品を投入、目視・顕微鏡分野および民生・商業分野に注力

2006年1月から山口大学との共同研究により、自然光LEDの開発を進め、同年11月には、目視検査用拡大リング

照明の試作に成功。世界最高レベルの演色性(演色評価数:98、太陽光に近い発光特性)を実現しました。その後、自然光LEDを安定的に量産する体制を社内に整えました。その結果、自然光LED搭載商品の第1弾として3月2日に目にやさしい実体顕微鏡用LED照明「自然光CNR」を発売開始しました。自然光LEDを搭載した照明は、目視検査向け、商業施設および美術館・博物館向け、内視鏡など医療向けに順次発売していく計画です。このほか、民生・商業分野ではLEDゆらぎ照明を京都の伝統技術とのコラボレーションで開発を進め、4月から発売開始します。

Q4 フェアリーエンジェル子会社化の狙いをお聞かせください。

A LEDによる植物工場の実現に向けて本格始動

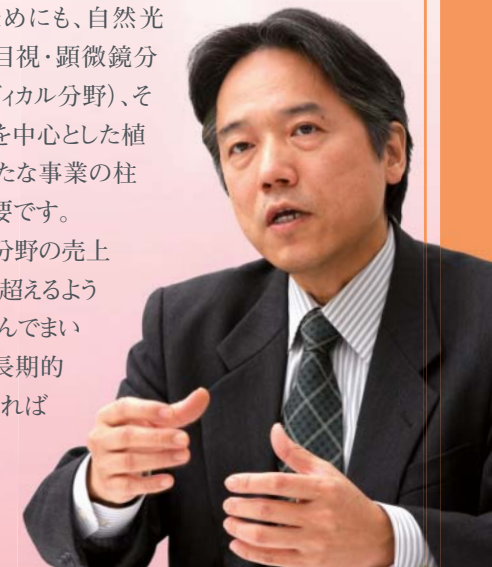
2008年12月に、植物育成プラント事業に本格的に参画することを目的として、フェアリーエンジェル社に出資し、実質連結子会社としました。同社の事業は植物工場で栽培した野菜の販売事業、植物育成プラント事業、レストラン事業です。未来の農業を考えると、植物工場が農業問題を解決する手段として有望であり、その成功の鍵を握るのはLED照明による照射および育成ノウハウだと考え、10年近く前からシーシーエスにおいて研究を続けてきました。2008年8月の福井工場(エンジェルファーム福井)の稼働後は、フェアリーエンジェルの栽培技術とプラント技術にシーシーエスのLED技術を組み合わせて省エネ型の植物工場の実現を目指しています。フェアリーエンジェルは、同社の植物工場で栽培した野菜を「てんしの光やさい」として百貨店やスーパーマーケットで販売しており、ブランドの認知度は徐々に向上して

います。創業4年足らずの成長過程にあるベンチャー企業のため当期はまだ赤字ですが、来期からは利益面を確保できる見通しです。さらに福井工場では、三菱化学の太陽電池の技術を組み合わせて3社で研究を進めています。砂漠や寒冷地など、野菜が採れない地域で、新鮮な野菜を毎日収穫できる植物工場が望まれており、中東からすでに引き合いがあります。

Q5 これからのシーシーエスについて考えをお聞かせください。

A 環境共生型企業として成長する第一歩を踏み出す

現在、LEDに対する期待が大きく盛り上がり始めていますし、米国のグリーン・ニューディール政策など国を挙げて、環境事業への投資意欲が高まっており、当社が環境共生型企業として成長していく、第一歩を踏み出す時期だと考えています。今は非常に厳しい時ですが、来期は黒字化する要素は揃っています。今をチャンスと捉えて、スタートダッシュの年にしたいと思っています。事業の安定化を図るためにも、自然光LEDを用いたビジネス(目視・顕微鏡分野、民生・商業分野、メディカル分野)、そしてフェアリーエンジェルを中心とした植物育成プラント事業を新たな事業の柱となるよう育てることが必要です。将来、これらの新規事業分野の売上高がマシンビジョン分野を超えるよう全社一丸となって取り組んでまいります。株主の皆様には長期的な視点でご支援いただければ幸いに存じます。



LEDで新たなマーケットを創造～人と地球にやさしい光の世界企業へ～

CCSは独自のコアテクノロジーに加えて、これまでに蓄積した40,000件以上の撮像データをベースに、光の照射範囲、照射角度、平行度や照射波長といった要素を組み合わせたライティング・ソリューションを提案しています。ライティング・ソリューションを強みに、LEDの新たな可能性を拓き人と地球にやさしい光の世界企業として社会に貢献してまいります。

■半導体・電子部品 ■包装・食品・薬品 ■自動車

マシンビジョン照明分野

様々な製品の品質検査に画像処理技術が活用されていますが、この画像処理の成功のカギを握るのがLED照明です。人間の目では判別が難しい微細で複雑な工業用製品の検査分野で、当社のLED照明が活躍しています。



LED光源ボックス
PFB-20SWシリーズ

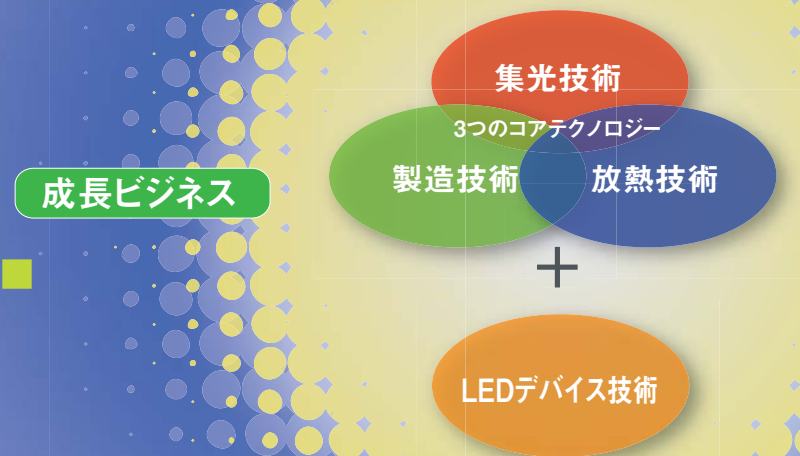
100Wハロゲン光源ボックスを超える明るさを実現したLED光源ボックスです。LEDは寿命がハロゲンの25倍以上あり、ランプ交換の手間がかからず、消費電力も約5分の1。ランニングコストをおさえ、CO₂削減効果もあります。



ライン照明
HLNDシリーズ／LNシリーズ

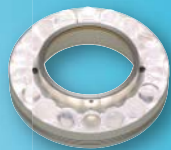
これまで光量の関係で蛍光灯やハロゲンが主流のライセンサカメラ用照明（高速に線で撮像する場合に使う照明）。これをLEDで開発した商品が、ソリューションと組み合わせて浸透しつつあります。

ライティング・ソリューション



■目視・顕微鏡分野

作業者の立場に立って光の質を追求しつづ、明るさ、消費電力など効率性も実現すべく開発に注力しています。



自然光CNR

当社が開発した世界一の演色性を持つ自然光LEDを初めて搭載した顕微鏡用LED照明です。高演色に加えて、人の目に負担が少なく、長時間使用しても疲れにくいのが特徴です。製造現場の顕微鏡を使った目視検査市場に向けて拡販します。

■バイオ・アグリ分野

大学や研究所向けに独自開発の植物育成用LED照明を提案すると同時に、植物育成プラントにおけるLEDによる育成技術の研究を進めています。



■メディカル分野

メディカル分野では内視鏡用など診断機器をはじめとする治療に必要な光の応用方法を研究しています。

■民生・商業分野

京都の伝統技術とハイテクの融合により開発したLEDゆらぎ照明や自然光LEDの店舗用スポットライトなど新たなマーケットを開拓してまいります。

LEDゆらぎ照明

独自の制御技術でLEDを点滅することによって、ろうそくの炎のような自然なゆらぎを再現しました。ホテルやレストランを中心に販売を拡大します。



国際ホテル・レストランショーに出展 (2009年2月24日~27日)

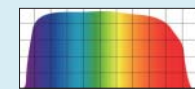


■自然光LED™

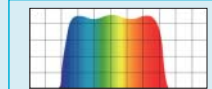
忠実に色を再現し、人体や対象物にやさしい光

山口大学の田口常正教授と共同で、色の再現性に優れた自然光LED照明を開発しました。従来の白色LEDや他社の演色LEDとは明らかに異なり、世界で最も演色性が高く、太陽光に最も近いスペクトルが特徴です。

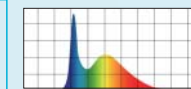
■光源のスペクトル (光の波長と強さの関係)



太陽光のスペクトル



CCS自然光LEDのスペクトル



従来の白色LEDのスペクトル

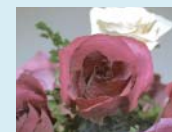
シーシーエスの自然光LED照明の特長

- ①太陽光の下での色味と同じ色が再現できる。
- ②対象物を傷めない。

白熱灯の下では白い紙がだいたい色に見えるように、光源が色の見え方に影響を及ぼします。洋服や口紅などをデパートなどの店内で見た時の色と、屋外で見た時に色に違いを感じるのはこのためです。これを演色性といいますが、演色性の良い光源とは、対象物の色合いを変えることなく照らし出す光源のことを指します。

■演色性の違いのイメージ

●従来の白色LEDの場合



●自然光LEDの場合



当社の自然光LEDは太陽光に最も近い光を持ち、対象物の色を忠実に再現することができます。微妙な色や見え方を検査する現場や、医療現場で病気の進行具合を詳細に把握する場合などに役立つと考えています。そのうえ、太陽光と比べて、強い紫外線域と赤外線域をカットしていますので、人の体に安全で、絵画などの美術品の色の変色を防ぐなど、従来の照明にはない効果があります。

新規ビジネス

植物育成プラント事業に参入～フェアリーエンジェルを子会社化～

LEDで農業の工業化を目指す

今号の特集ではシーシーエスの植物事業への取り組みをご紹介します。

食の安全、安定供給の追求のために植物育成プラント事業を新たな事業の柱として育成します

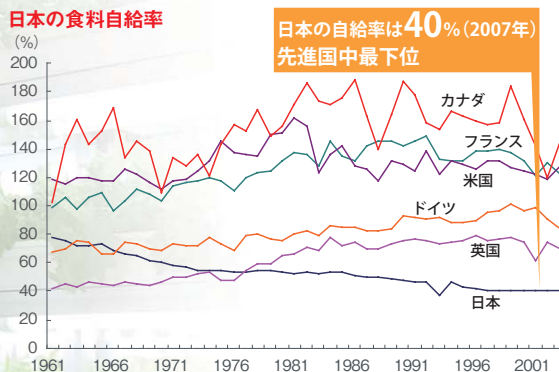


レストランの地下に併設された工場「エンジェルファーム北山」（京都・北山）

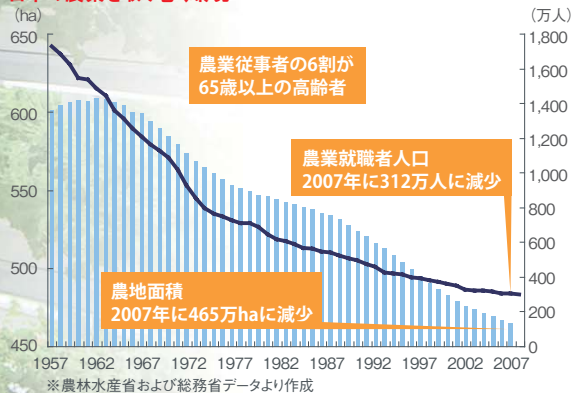
食料資源を取り巻く環境

■世界の食料需給は中長期的にひっ迫した状況に

世界の食料需給は将来、ひっ迫する可能性が高く、食料輸入大国である日本にとって非常に深刻な問題となっています。残留農薬問題、食品偽装など食に関する事件の続発もあり、今後、現在と同水準の食料を、日本がいつまで確保できるのかという問題が顕在化しつつあります。



日本の農業を取り巻く環境



■食問題の解決の一環として

“植物工場”普及に向けた法改正

こうした食料資源問題の解決策の一環として、経済産業省と農林水産省は、植物工場の普及を促進するため、農地法改正などによる特例措置を設ける方針を固めています。2009年3月末にも報告書をまとめ、可能な施策から順次実施していくとしています。また、農地法の改正に加えて、植物工場の設置を優遇する構造改革特区への指定や補助金などの創設が検討されています。食料資源の需給安定は、世界的に見ても、ますます重要な課題となっていくものと考えられます。植物工場に代表される新しい食料生産システムは、食の安定供給、食の安全、農業の産業化などを実現する切り札として期待が高まっています。

フェアリーエンジェルグループ化の目的

■シーシーエスの照明技術、

フェアリーエンジェルの栽培技術の融合

食の安心、安全、安定供給という時代の要請に沿って、高付加価値野菜を生産・供給する植物育成プラント事業は、今後大きく成長する分野だと考えられます。もともと、当社は植物育成用LED照明の開発に着手した2000年頃から、将来的に植物工場の実現を視野に入れていました。これまで、植物育成研究用照明のラインナップの拡充に加えて、自社で植物育成実験プラントを持ち、研究開発を続けてきました。2007年には、実験プラントをフェアリーエンジェルに譲渡し、業務提携を締結しましたが、今回、フェアリーエンジェルが展開する植物育成プラント事業に参画するために、同社をグループ化することといたしました。フェアリーエンジェルは野菜の栄養価や味などの植物栽

培技術に強みを持っています。当社がこれまで研究を続けてきたLED光と植物育成の関係に基づいた照明技術を活用して、フェアリーエンジェルの植物栽培技術と融合することでLEDによる植物工場実現に向けての一步を進み始めました。

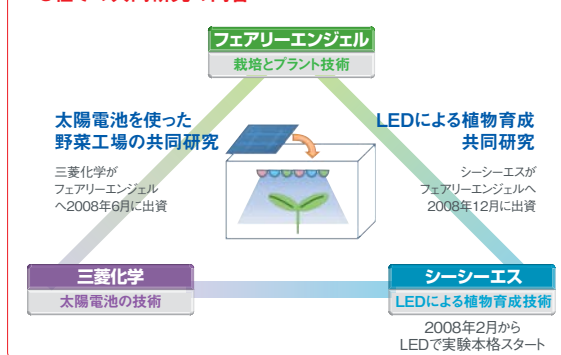
■LED照明の優位性

LED照明は、植物の育成に必要な光を選択して照射することができるため、他の光源や太陽光と比べても、効率良く植物を育てることが可能です。例えば、赤や青色のLED光を当てると、成長を早め、ビタミン成分も増加することなどが明らかになっています。こうしたことに加えて、低消費電力、メンテナンスフリーで長寿命といった特性を持つLED照明はこれまで使われていた光源に比べて非常に優位性が高く、省エネ型植物工場の実現に寄与するものとして、注目を集めています。

■食の未来を支えるLED植物工場は 新しい農業のかたち

植物工場のなかはクリーンルーム（無菌室）で、温度・湿度・光・水などが制御管理され、植物の成長に最も適した環境が作られています。栽培された野菜は栄養価も高く、無農薬で安心して食べていただけます。また、天候の影響を受けるリスクがなく、成長速度が早くなるため、年に何回も出荷ができるというメリットがあります。これまで、田畑を作ることが全く想定できなかった都市部の地下や砂漠地帯、寒冷地などに建設することが可能となります。LED植物工場は環境にやさしい、食の未来を支える新しい農業のかたちです。

●3社での共同研究の内容



植物育成事業の今後

■ビジネスモデルの早期確立、国内、海外へ展開

2009年2月、フェアリーエンジェルが持つ世界最大級の野菜工場「エンジェルファーム福井」(福井県三方郡)において、LED照明で野菜を栽培するという共同研究を開始しました。近い将来、フェアリーエンジェルの提携先である三菱化学の太陽電池とのコラボレーションによって、省エネ型の植物育成プラント事業を立ち上げる予定です。そして、生産技術、資金調達、販路の開拓など植物工場のビジネスモデルを早期に確立し、国内のみならず、海外へも展開したいと考えています。

食の安心、安全、安定供給の追求のために、事業を展開することで社会へ貢献したいという当社の企業理念のもと、植物育成プラント事業を新たな事業の柱として積極的に育成してまいります。

フェアリーエンジェルのこれまでの取り組み

2005年	5月	会社設立
	7月	第1号店舗(京都・北山)営業開始
	10月	レストラン地下の植物工場(京都・北山)が操業開始
2006年	3月	百貨店など各店舗への野菜販売を開始
2007年	9月	シーシーエスの植物育成実験プラント(千葉県野田市)を取得
2008年	6月	福井工場の竣工
	8月	福井工場の野菜を出荷開始
	11月	福井工場でシーシーエスと共同実験を開始
	12月	シーシーエスグループとなる

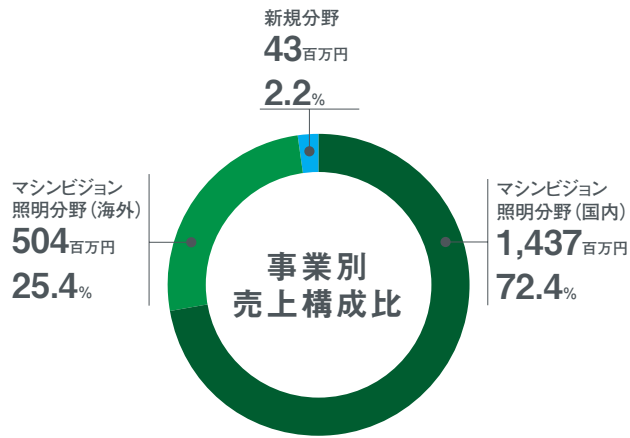


連結決算の状況

Consolidated Financial Highlights

※ 百万円未満を切り捨てています。

セグメント別の売上状況(当第2四半期累計)

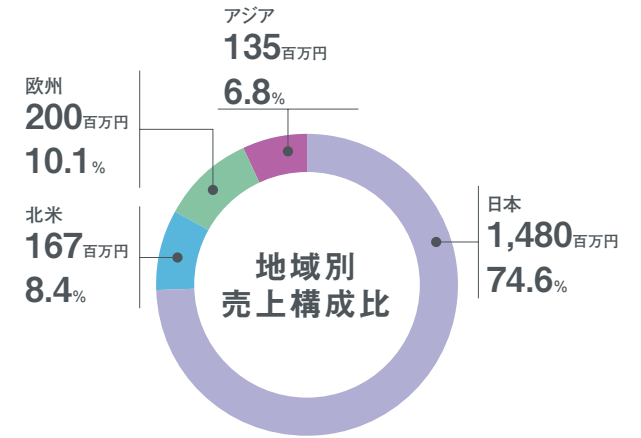


■マシンビジョン照明分野

世界的な景気後退の影響から、売上高の大半を占める電子・半導体、自動車関連分野向けの売上高、受注が急減する一方、食品・薬品・化粧品いわゆる三品業界向けは堅調に推移し、世界的な需要拡大を背景に営業を強化している太陽電池パネル、リチウム電池向けソリューションは急速に拡大しております。また、売上高、利益の拡大に向けてLED光源ボックス「PFB-20SW」の営業や、ラインセンサのソリューション提案を強化いたしました。

■新規分野

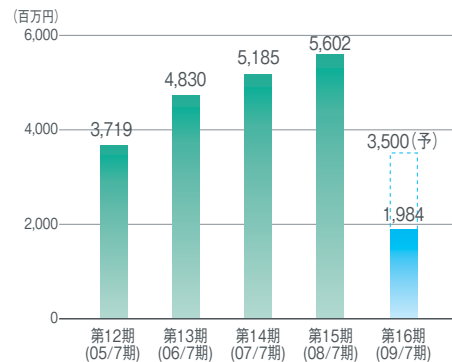
景気悪化を受け、厳しい状況となっておりますが、「自然光LED」製品の開発を積極的に進めたほか、2008年12月にフェアリーエンジェルに出資し、植物育成ブランド事業へ本格的に参画いたしました。



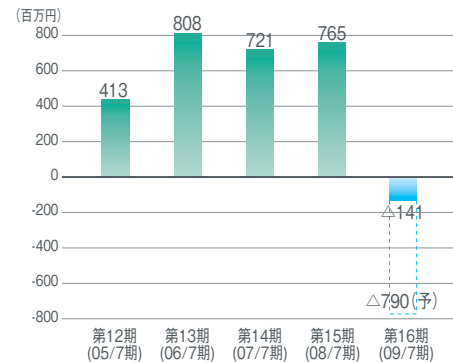
財務ハイライト

■ 第2四半期 (実数) □ 通期(予想)

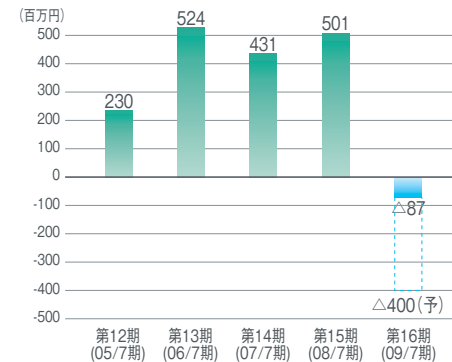
■売上高



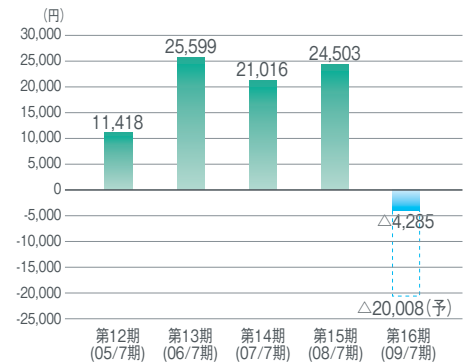
■経常利益



■四半期(当期)純利益



■1株当たり四半期(当期)純利益



※ 百万円未満を切り捨てています。

■連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (2009年1月31日現在)	前期 (2008年7月31日現在)
資産の部		
流動資産	2,838	3,489
1 固定資産	3,823	1,442
有形固定資産	3,265	1,210
無形固定資産	337	112
投資その他の資産	220	119
資産合計	6,661	4,931
負債の部		
流動負債	1,470	873
固定負債	1,684	607
2 負債合計	3,155	1,481
純資産の部		
株主資本	3,234	3,446
資本金	460	460
資本剰余金	575	575
利益剰余金	2,357	2,485
自己株式	△ 159	△ 74
評価・換算差額等	△ 115	4
新株予約権	17	—
少数株主持分	370	—
純資産合計	3,506	3,450
負債純資産合計	6,661	4,931

1 POINT 固定資産

フェアリーエンジェルの連結子会社化を主な要因として、建物及び構築物、機械装置及び運搬具、土地、のれん、繰延税金資産等が増加し、固定資産合計は3,823百万円となりました。

2 POINT 負債合計

フェアリーエンジェルの連結子会社化を主な要因として、短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金等が増加し、負債合計は3,155百万円となりました。

■連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (2008年8月1日から 2009年1月31日まで)	前中間期 (2007年8月1日から 2008年1月31日まで)
売上高	1,984	2,723
売上原価	730	940
売上総利益	1,254	1,783
販売費及び一般管理費	1,426	1,368
3 営業利益	△ 172	414
営業外収益	45	8
営業外費用	14	21
経常利益	△ 141	401
特別損失	0	2
税金等調整前四半期純利益	△ 141	398
法人税、住民税及び事業税	3	139
法人税等調整額	△ 57	△ 2
四半期純利益	△ 87	261

3 POINT 営業利益

全社をあげて原材料・使用部材の共通化、事務作業の効率化等に取り組む、コストダウンおよび経費削減に努めましたが、販売費及び一般管理費が増加し、売上高の減少を吸収するには至りませんでした。

■連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (2008年8月1日から 2009年1月31日まで)	前中間期 (2007年8月1日から 2008年1月31日まで)
4 営業活動による キャッシュ・フロー	142	241
5 投資活動による キャッシュ・フロー	△ 392	△ 311
財務活動による キャッシュ・フロー	78	391
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 78	△ 11
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△ 249	310
現金及び現金同等物の 期首残高	940	560
現金及び現金同等物の 四半期末残高	691	870

4 POINT 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純損失となりましたが、減価償却費の増加、売上債権の減少、退職給付引当金の増加などにより、142百万円の収入超過となりました。

5 POINT 投資活動によるキャッシュ・フロー

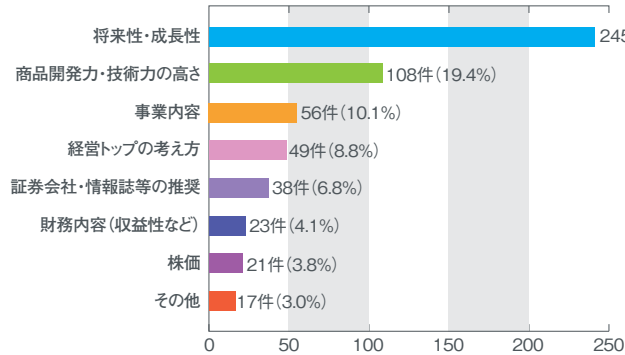
フェアリーエンジェル株式の取得、有形固定資産の取得などにより、392百万円の支出超過となりました。

アンケート結果のご報告

Questionnaire Results

Q1

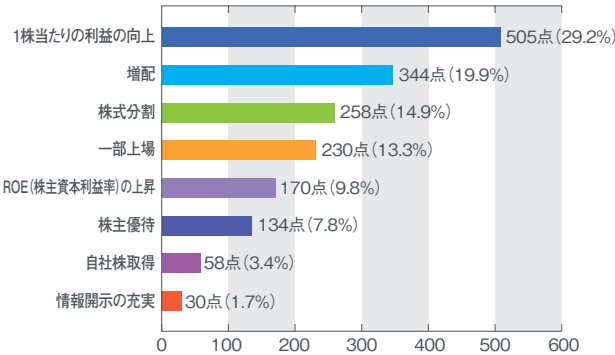
当社の株を購入された理由 (複数回答可)



Q2

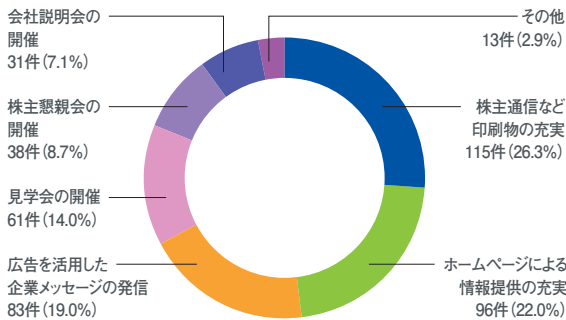
今後、当社に期待すること

(1位に3点、2位に2点、3位に1点を傾斜配分して算出)



Q3

当社のIR活動に希望すること (複数回答可)

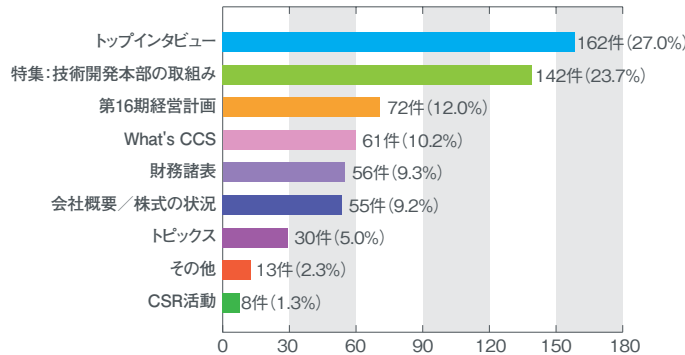


見学会や会社説明会を希望されている方が29.8%と前年(25.5%)より多くいらっしゃいました。

Q4

当社の「株主通信」冊子で特に興味を持たれた内容 (複数回答可)

(複数回答可)



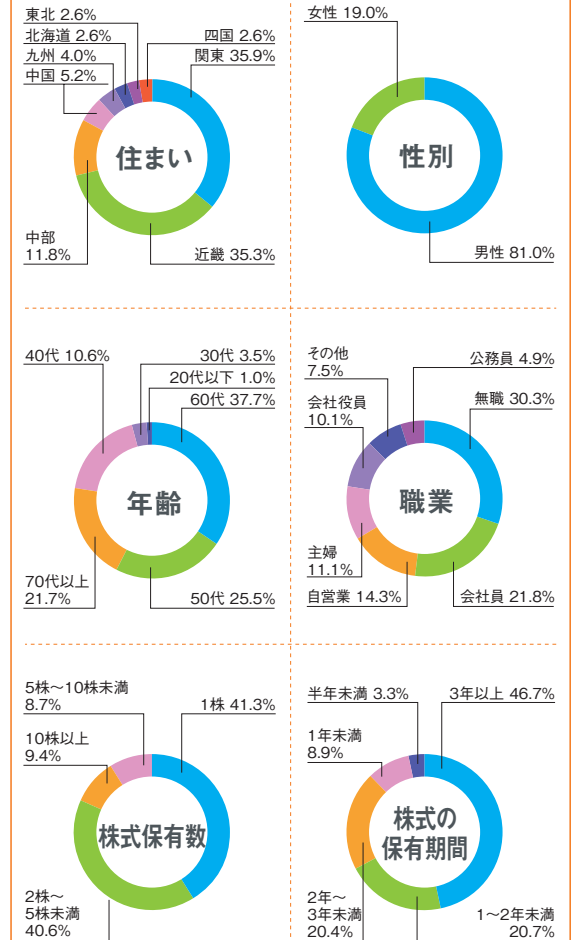
今回紙面をリニューアルしましたが、前年同様、トップインタビューと特集が上位2位となりました。

当社へのご意見・ご要望 (自由記述欄)

合計125件のご意見・ご要望をいただきましてありがとうございます。「株価へのコメント」や「会社への期待・激励」など多数いただきました。株主の皆様の貴重なご意見、ご要望を当社の経営に反映させるべく、今後も努力いたします。末永くご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ご回答いただいた株主様について

2,960名の株主の皆様(2008年7月31日現在)へアンケートはがきを送付しましたところ、312名から返信をいただきました(返送率:10.5%)。以下は株主様の属性をグラフ化したものです。



Corporate Information

Stock Information

■ 会社概要

本社所在地 〒602-8011
京都市上京区烏丸通下立売上ル
桜鶴円町374番地
TEL. 075-415-8280(代表)
FAX. 075-415-8281(代表)

設立 1993年10月6日
資本金 460,350千円
従業員数 244名(連結) 193名(単独)

取引銀行 三菱東京UFJ銀行・みずほ銀行・京都銀行

事業内容 ● 画像処理用LED照明装置
および制御装置の開発、製造、販売
● 顕微鏡光源用LED照明装置
および制御装置の開発、製造、販売
● 植物育成用LED照射装置
および制御装置の開発、製造、販売
● 医療用LED照明応用製品の
開発、製造、販売
● その他LED応用照明の開発、
製造、販売

事業所 生産センター、シーシーエス光技術研究所、
東京営業所、名古屋営業所、
仙台テストングルーム、上海駐在員事務所、
深圳駐在員事務所

関連会社 CCS America Inc.
CCS Asia PTE LTD
CCS Europe NV
株式会社フェアリーエンジェル

■ 役員

代表取締役社長 米田 賢治
取締役 各務 嘉郎
取締役 穉本 光
取締役 河嶋 良和
取締役 高山 啓
監査役 松室 伸二
監査役 入江 英典
監査役 安封 昂雄

■ 株式の状況

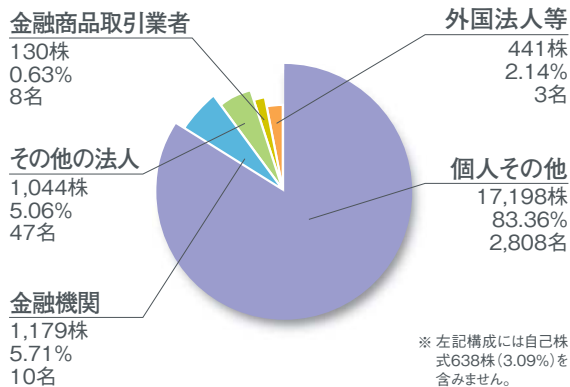
発行可能株式総数 60,000株
発行済株式の総数 20,630株
売買単位 1株
株主数 2,877名

■ 大株主の状況

株主氏名	株式数	所有株式数の割合
1 米田 賢治	7,800株	39.01%
2 日興シティ信託銀行株式会社(投信口)	577株	2.88%
3 株式会社サン・クロレラ	520株	2.60%
4 ザ チェースマンハッタンバンク エヌエイロンドン エスエルオムニバスアカウント	404株	2.02%
5 シーシーエス従業員持株会	357株	1.78%
6 日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	290株	1.45%
7 米田 美鈴	250株	1.25%
8 サン・クロレラ販売株式会社	233株	1.16%
9 安井 由美子	180株	0.90%
10 安封 昂雄	161株	0.80%

※ 所有株式数の割合は自己株式638株を控除して計算しております。

■ 株主構成



※ 左記構成には自己株式638株(3.09%)を含みません。

株主メモ

事業年度 毎年8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会 毎年10月
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
TEL ☎0120-094-777(通話料無料)

公告方法 電子公告
公告掲載 URL
<http://www.ccs-inc.co.jp/ir/koukoku.html>
(事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。)

基準日 期末配当金 毎年7月31日
中間配当金の支払いを行うときは
毎年1月31日

上場証券取引所 JASDAQ
証券コード 6669
(ご注意)
1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

WEBサイトのご案内

「企業情報」では、動画とイラストでシーシーエスの事業内容や強みについて知っていただける「3分でわかるCCS」をご覧ください。 「IR情報」では、財務ハイライトや決算資料などを掲載し、ニュースページでは、最新の記事掲載についてのお知らせなど、随時更新しています。

ぜひご覧いただきまして、「お問い合わせ」のページからご意見・ご質問など、皆様のお声をお寄せいただければ幸いです。



<http://www.ccs-inc.co.jp>

シンガポール子会社の社名変更記念式典を開催

CCSグループの海外事業戦略の一環として、2009年1月1日付で、シンガポールの子会社 RDV (S) PTE LTDを社名変更し、CCS Asia PTE LTD (以下CCSアジア)としました。1月9日にはシンガポールにて「CCSアジア社名変更記念式典」を開催し、代理店やエンドユーザーの方々約100名のご来場がありました。初めにCCSアジアのマネージングダイレクター伊谷氏からお話があり、その後、シーシーエス代表取締役社長米田氏が社名変更の背景などを説明しました。

シンガポール子会社をCCSアジアと改名することで、コーポレートイメージを統一し、グループ全体で一体感を持って、アジアでの成長戦略を積極的に推進してまいります。



マネージングダイレクター 伊谷氏



代表取締役社長 米田氏



展示の様子



式典会場



シーシーエス株式会社

〒602-8011

京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374番地

TEL. 075-415-8280(代表) FAX. 075-415-8281(代表)

シーシーエスはチーム・マイナス6%に参加しています。
みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%



環境に配慮し、大豆油インキとFSC認証紙を使用しております。

■ 免責条項

本報告書に掲載している将来に関する予想については、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、異なる場合があることをご承知おきください。